

2018 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
経営学部 地域ビジネス学科	教授	杉谷 正次
最終学歴	学 位	専 門 分 野
愛知学院大学大学院文学研究科博士課程前期修了	文学修士	スポーツ経営学、経営情報学

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

教育力の向上を目指すとともに、校訓「真面目」、建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を意識した教育活動に努める。教育力の向上については、「魅力ある授業づくり」、校訓・建学の精神を意識した教育活動については、「問題解決能力を備えた、真面目で責任感のある人材」を育成する。また、今年度より始動したブランディングにおける「オンリーワンを、一人に、ひとつを。」を意識しつつ、自らが掲げたクレド「教育も研究も一步一步着実に」をモットーに教育活動にあたる。

(計画)

本年度も、前年度の授業評価アンケートの結果を踏まえ、「事前事後学習を積極的に取りまわせる授業」、「わかりやすく興味を持てる授業」を目指した「魅力ある授業づくり」に取り組む。講義科目では、毎時間シラバスで提示した講義の目的と概要を提示するとともに、事前事後学習につなげるための課題提示、小テストやリアクションペーパーなどを活用しつつ、学生ひとり一人の理解度を確認していきながら講義をすすめる。

専門演習では、問題解決能力を身につけさせるため、各自が設定した研究テーマにおける課題を明確にさせ、それに対するレポート作成、プレゼンテーションなどの指導にあたる。特に3年生の専門演習では、研究発表、また経営学部の事業である「愛知東邦大学杯少年サッカー大会」の企画・運営、4年生の専門演習では、ゼミ生全員が卒業レポートを作成できるよう指導する。

○担当科目（前期・後期）

(前期) 入門コンピュータ、スポーツ情報論、スポーツビジネス、スポーツマネジメント、基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

(後期) ビジネスコンピューティング、クラブ組織論、基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ

○教育方法の実践

映像資料などの教材を積極的に導入し、「わかりやすく興味を持てる授業」を実践した。また、講義科目では、パワーポイント、小テスト、リアクションペーパーなどを活用することにより、学生の理解度を確認しながら授業をすすめた。

○作成した教科書・教材

授業で使用する教材として映像資料を多数作成した。

○自己評価

「学生による授業評価アンケート」等の結果から、本年度の教育活動については、当初の目標を達成することができたと考える。具体的には、以下のとおりである。

「スポーツマネジメント」は、受講者自身に関する評価、授業担当者に関する評価とも、ほとんどの設問項目が4.3~4.7ポイントという評価であったことから、「概ね適切な授業ができた」と判断する。但し、予習復習などの自主的な学習があまりされていなかったようなので、次年度は

予習復習などの自主的な学習がなされるよう授業改善をしていきたい。

「入門コンピュータ」は、アンケート設問内容「この授業の内容について理解できましたか」「この授業の受講によって、学ぶことへの興味関心（意欲）が高まりましたか」「授業におけるテキスト、板書、配布資料、スライドなどは分かりやすかったですか」「教員の声や話し方は聞き取りやすかったですか」「授業の妨げ（私語・携帯電話・遅刻）に対する教員の対応は適切だったと思えますか」などの設問項目の評価が全科目評価平均と同等の評価であったことから、「概ね適切な授業ができた」と判断する。

「クラブ組織論」は、受講者自身に関する評価、授業担当者に関する評価とも、ほとんどの設問項目が4.0～4.3ポイントという評価であったことから、「概ね適切な授業ができた」と判断する。

「ビジネスコンピューティング」は、受講者自身に関する評価、授業担当者に関する評価とも、ほとんどのアンケート設問内容において、全科目平均を上回った評価であったことから、「概ね適切な授業ができた」と判断する。

「専門演習Ⅱ」は、ゼミナール交流会において研究発表を行い、また「第12回愛知東邦大学杯少年サッカー大会」のマネジメントを行うなど、当初の目標・計画を達成することができた。

「専門演習Ⅳ」は、2名を除く学生が卒業レポートを作成し、さらにゼミナール交流会において卒業レポートに関する研究発表を行うなど、当初の目標・計画をほぼ達成することができた。

II 研究活動

○研究課題

スポーツビジネスに関する研究 — スポーツツーリズムを中心として —

○目標・計画

（目標）

今年度は、スポーツビジネス全般について研究をすすめていくが、とりわけ「スポーツツーリズム」に関する研究を行う。年度末までには、スポーツツーリズムにおけるこれまでの研究成果を発表できるよう、一步一步着実に研究活動にあたる。

（計画）

すでにスポーツツーリズムを積極的に展開している地域、またそれを展開しようとしている地域の取り組みについての現地調査を行う。研究方法としては、スポーツ団体、自治体組織（NPO法人等を含む）などに対し、インタビュー調査、アンケート調査を実施するとともに、これまで収集したデータや資料を整理して考察する。

○2011年4月から2019年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・杉谷正次, 石川幸生『現代スポーツマネジメント—マーケティングからマネジメントの時代へ—』三恵社, 2016年9月, pp. 21-29, pp. 72-127.
- ・杉谷正次, 藤森憲司, 青木葵, 石川幸生, 葛原憲治『スポーツツーリズムの可能性を探る—新しい生涯スポーツ社会への実現に向けて—』唯学書房, 2015年11月, pp. 25-57.
- ・杉谷正次, 石川幸生『現代スポーツビジネス』三恵社, 2012年8月, pp. 107-220.
- ・杉谷正次, 石川幸生, 後藤永子, 青木葵, 山内章裕, 木村典子『超高齢社会における認知症予防と運動習慣への挑戦—高齢者を対象としたクロリティー活動の効果に関する研究』唯学書房, 2012年3月, pp. 35-51.

（学術論文）

- ・杉谷正次「沖縄観光におけるスポーツ・ツーリズムの現状と課題」『東邦学誌』, 第41巻第2号,

2012年12月, pp. 47-64.

- ・木村典子, 杉谷正次, 石川幸生, 青木葵, 後藤永子, 山内章裕「認知症と精神的健康に焦点をあてた介護予防としてのニュースポーツー地域のクロリティークラブチームからの考察ー」『愛知学泉大学・短期大学研究論集』, 第46号, 2011年12月, pp. 41-49.
- ・杉谷正次, 青木葵, 石川幸生, 御園慎一郎, 杉浦利成「スポーツ・ツーリズムの可能性を探るー国際リゾートをめざす北海道ニセコ地域の事例からー」『東邦学誌』, 第40巻第2号, 2011年12月, pp. 1-15.
- ・木村典子, 杉谷正次, 石川幸生, 青木葵, 後藤永子, 山内章裕「高齢者の記憶の自己効力感についての検討ークロリティー選手権大会に参加した高齢者からの考察ー」『東邦学誌』, 第40巻第1号, 2011年6月, pp. 129-139.

(学会発表)

- ・Masatsugu SUGITANI, Yukio ISHIKAWA, Takashi ONO, Mamoru AOKI : Study on the Park-golf of the effects of a lifetime sport, From the survey of the awareness of Park-golf enthusiasts, International Conference of the 66th Japanese Society of Education and Health Science, Dong-A University Sunghak Campus South Korea, *Journal of Education and Health Science*, Volume 64, Number 1, August, 2018, p75..
- ・杉谷正次, 石川幸生, 青木葵, 脇坂康彦, 小野隆「生涯スポーツとしてのパークゴルフの研究ースポーツツーリズムに着目してー」第64回日本教育医学会大会, 三重大学, 2016年8月, p55.
- ・Noriko KIMURA, Mamoru AOKI, Yukari MATSUI, Yukio ISHIKAWA, Masatsugu SUGITANI : Current state of end-of-life care for older adults with dementia in group homes: Results of a nationwide survey in Japan, 第16回日・韓健康シンポジウム 兼第63回日本教育医学会大会, 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス, 2015年8月, pp. 136-137.
- ・葛原憲治, 柴田真志, 杉谷正次「小学生ジュニアサッカー選手における傷害発生率」第19回日本体力医学会東海地方学術集会, 名古屋大学, 2015年3月, p36.
- ・Noriko KIMURA, Chihiro KIMATA, Yukio ISHIKAWA, Mamoru AOKI, Masatsugu SUGITANI, Masataka TERASHIMA : Perceptions of older people with dementia held by university students and relevant factors, 第15回日・韓健康シンポジウム 兼第61回日本教育医学会大会, 大韓民国済州大学校 アラキャンパス, 2013年8月, pp. 84-85.
- ・杉谷正次, 石川幸生, 青木葵, 御園慎一郎, 杉浦利成, 葛原憲治「スポーツ・ツーリズムの可能性を探るー生涯スポーツとしての『グラウンド・ゴルフ』発祥地大会を事例としてー」第14回日本生涯スポーツ学会, 広島経済大学, 2012年10月, p45.
- ・木村典子, 杉谷正次, 石川幸生, 青木葵, 後藤永子, 山内章裕「地域密着型サービスを拠点としたまちづくりに関する研究ークロリティー活動の事例からー」第60回日本教育医学会記念大会, 筑波大学, 2012年8月, pp. 133-134.
- ・杉谷正次, 石川幸生, 青木葵, 木村典子, 後藤永子, 山内章裕「高齢者を対象としたクロリティー活動の効果に関する研究ー愛知県、島根県のクラブ活動からの考察ー」第60回日本教育医学会記念大会, 筑波大学, 2012年8月, pp. 135-136.
- ・木村典子, 青木葵, 石川幸生, 杉谷正次, 後藤永子, 山内章裕「地域で暮らし仲間とスポーツをおこなっている認知症の疑われる高齢者についての検討ークロリティー選手権大会に出場した高齢者からの考察」第26回日本老年精神医学会, 京王プラザホテル, 2011年6月, p245.
- ・木村典子, 青木葵, 石川幸生, 杉谷正次, 後藤永子, 山内章裕「地域で仲間とスポーツを楽しみながら生活している高齢者の記憶の自己効力感の検討ーA県クロリティー選手権大会に参加した

高齢者からの考察」第53回日本老年社会科学会，ハイアットリージェンシー東京，2011年6月，p297.

(その他)

- ・杉谷正次，石川幸生『パークゴルフにおけるアンケート調査報告書』（共著），公益社団法人日本パークゴルフ協会（NPGA）設立30周年記念事業，ソーゴー印刷株式会社，2017年9月

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

2018年度：愛知東邦大学地域創造研究所共同研究（申請1件、採択1件）

2017年度：愛知東邦大学地域創造研究所共同研究（申請1件、採択1件）

2016年度：愛知東邦大学地域創造研究所共同研究（申請1件、採択1件）

2015年度：愛知東邦大学地域創造研究所共同研究（申請1件、採択1件）

2014年度：愛知東邦大学地域創造研究所共同研究（申請1件、採択1件）

2013年度：愛知東邦大学地域創造研究所共同研究（申請1件、採択1件）

2012年度：愛知東邦大学地域創造研究所共同研究（申請1件、採択1件）

2011年度：愛知東邦大学地域創造研究所共同研究（申請2件、採択2件）

○所属学会

経営情報学会、日本情報経営学会、日本教育医学会、日本スポーツ産業学会、日本生涯スポーツ学会、日本スポーツマネジメント学会

○自己評価

研究テーマ「スポーツビジネスに関する研究 ―スポーツツーリズムを中心として―」では、スポーツツーリズムの成功例とされている北海道及び沖縄県の取り組みに関する実地調査を実施することができた。

また、本年度の主な研究成果としては、International Conference of the 66th Japanese Society of Education and Health Science)において、学会発表を行った。

III 大学運営

○目標・計画

(目標)

建学の精神、校訓である真面目を基本として、委員会等の諸活動に積極的に関与し、大学運営に寄与する。

(計画)

入試委員会委員長、学生募集戦略委員会委員としての業務をこなし、大学運営に貢献する。

○学内委員等

入試委員会委員長、学生募集戦略委員会委員

○自己評価

本年度は、入試委員会委員長、学生募集戦略委員会委員として積極的に活動することができた。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

高・大連携授業等に積極的に関わるとともに、地域貢献、社会貢献としての地域スポーツ振興に寄与する。

(計画)

系列校である東邦高等学校人間健康コースの生徒を対象とした講義（総合学習）や外部の高等学校から要請のあった出張講義を積極的に行う。

また、経営学部の事業である「愛知東邦大学杯少年サッカー大会」、日進市体育協会評議員として同市が主催するスポーツイベント、日進市サッカー協会理事として同サッカー協会が主催するサッカー大会のマネジメントなど、地域スポーツ振興にも貢献する。

○学会活動等

日本情報経営学会第76回全国大会自由論題セッション（Ⅱ）のコメントータとして委嘱を受け、学会発表の運営に寄与した。

○地域連携・社会貢献等

日進市体育協会評議員（2007年4月～）、日進市サッカー協会理事（2008年7月～）

○自己評価

学内では、経営学部の事業である「愛知東邦大学杯少年サッカー大会」のマネジメント、学外では、系列校である東邦高等学校から要請のあった授業を担当した。さらに、社会貢献としては、日進市体育協会が主催する「アウトドアスポーツイベント」運営委員、また日進市サッカー協会理事として同協会が主催するサッカー大会のマネジメントなど、地域のスポーツ振興に貢献することができた。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

なし

VI 総括

本年度も入試委員会委員長としての業務でかなりの時間を費やしたが、当初の目標・計画であげた課題を概ね達成することができた。次年度も教育・研究活動のための時間を確保し、さらなる成果をあげることができるよう努力したい。

以 上